

地理A，地理B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

地 理 A

1 前 文

共通テストは、大学（専門職大学，短期大学，専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に，高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている。

共通テストでは，平成21年告示学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ，知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が重視されている。地理の問題作成方針においても，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題を含めて検討すると示されている。

なお，評価に当たっては，14ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 地図の読み取りと活用，及び日本の自然災害と防災に関して，地図や資料等から地理的諸事象に関する情報を読み取り，地図やGISと地形や気候に関する知識を基に，日本の自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 火山地形に関する地理院地図やスケッチを読み取り，湖の成因に関する知識を基に，火山周辺でみられる起伏や地形について考察する問題。

問2 GISを用いた分析方法について，ベースマップと重ね合わせる統計地図の情報から適切に読み取れる事項について判断する良問。

問3 3つの年代の地形図を読み取り，河川周辺にみられる地形と土地利用に関する知識を基に，地域の変化について考察する問題。

問4 都市部，農村部，山間部の地理院地図と光合成の活発度の図を読み取り，自然環境の違いを踏まえて，緑被率とその季節変化を考察する良問。

問5 気象衛星画像とその説明文を読み取り，停滞前線や台風，季節風による降雨の特徴に関する知識を基に，予想される災害やその対策について考察する良問。

問6 同じ地域の2種類のハザードマップを読み取り，津波や洪水に関する知識を基に，避難する際のルートや避難場所の安全性について判断する問題。

第2問 世界の生活・文化に関して，地図や資料から読み取って得た情報を基に，各地域にみられる特色を地理的な見方や考え方を働かせて探究的に考察する問題で構成されている。

問1 地域ごとの羊と豚の飼育頭数の割合を示した図を読み取り，各地域の自然環境や文化的差異についての知識を基に，羊や豚の分布について考察する良問。

問2 ラクダに関する分布図や雨温図について読み取り，世界の気候分布についての知識を基に，ステップで暮らす人々の生活について考察する問題。

問3 牛の飼育頭数を示した表を読み取り，3つの国の牛肉や乳製品の生産，消費に関する知

識を基に、飼育頭数の変化とその要因について考察する良問。

問4 肉類の年間供給量の変化とその説明文を読み取り、各国の経済状況や宗教に関する知識を基に、食生活の変化について考察する良問。

問5 天幕住居のイラストとその素材に関する説明文を読み取り、伝統的住居に関する知識を基に、人々の生活と自然環境の関係性を考察する問題。

問6 世界の生活・文化の変容に関する知識を基に、宗教、環境問題、景観と人々の生活の関係性を考察する探究的な問題。

第3問 アフリカを事例地域として、多様な資料を読み取り、自然環境や産業、文化、経済発展がもたらす生活の変化に関する知識や理解を基に、多角的に考察する問題で構成されている。

問1 アフリカの地形の起伏図と地図を照合し、アトラス山脈、ドラケンスバーグ山脈、アフリカ大地溝帯等の位置と標高に関する知識を基に、大地形を概観する問題。

問2 アフリカの気候の特徴について、世界自然遺産でみられる生物に関する記述を基に、その生息環境を考察する問題。

問3 エジプトとケニアの小学校の授業風景に関する写真から宗教の分布を、説明文から話されている言語を判断する問題。アフリカの宗教や言語に関する基本的な理解が必要。

問4 西部アフリカと南部アフリカの経済格差と産業の高度化についての知識を基に、2つの年代における産業構造を比較し、両地域の時代変化を考察する問題。

問5 人口総数と都市人口及び農村人口の割合を示した図形表現図を読み取り、3か国の人口規模や経済水準に関する知識を基に判断する良問。

問6 発展途上国と先進国の携帯電話と固定電話の契約数の推移に関する図を読み取り、普及率の差、発展途上国における携帯電話の急速な普及を問う良問。

第4問 世界の結びつきと地球的課題について、多様な観点を基に世界や日本の現状を図表から読み取り、基礎的な知識・技能を基に思考力を働かせる問題で構成されている。

問1 3つの国家群の広がり示した地図を用いて、各国家群の設置目的や特徴に関する記述を読み取り、その加盟国に関する基本的な知識を基に判断する問題。

問2 日本の主な貿易相手に関する地域ごとの総輸出額及び総輸入額に占める割合についてのグラフを読み取り、各地域の産業、経済規模とその割合の変化について考察する良問。

問3 再生可能エネルギーの利用が進むドイツの電源別の発電量と電力需要量の推移に関する図を読み取り、各発電方法の特徴について考察する問題。他国からの輸入で補っているかどうかの判断は難しい。

問4 世界の地域別の人口推移とその予測値を示した図を読み取り、年少人口と老年人口の年代変化と地域を判断する良問。人口問題を大観するのに適切な問題である。

問5 食品の生産から消費までを各段階に区切り、それぞれの段階での廃棄量の割合を地域別に示した図を読み取り、地域の経済水準や食品の特性を基に考察する工夫された良問。

問6 ODAの国別供与額の上位国を示した図形表現図を読み取り、各国の歴史的背景や地理的近接性を基に、3つの国を判断する問題。

第5問 島根県浜田市を対象とした、地理院地図や統計などの多様な資料を読み取って地域の地理的特徴を考察する地域調査の問題。自然環境と土地利用、他地域との結びつきや歴史的背景について地理的な見方や考え方を基に、見出された地域の課題を更に追究するための方策を考察、構想する、探究的な学習過程により構成されている。「地理B」との共通問題である。

問1 表から日照時間や平均気温の特徴を読み取り、図から地形や標高を把握するとともに、季節風に関する知識を活用して、浜田市がもつ気候の特徴について考察する問題。

- 問2 石見地方の各地区における消費行動や余暇行動の特徴を地図から読み取り、商圏都市の中心地の規模に関する知識を基に、都市の階層性を考察する良問。
- 問3 浜田市内の行政施設と商業施設の立地について、メッシュマップや統計を示した図から分布の特徴を読み取り、それぞれの立地特性の差異に関する知識を活用して考察する良問。
- 問4 浜田市内の各地点でみられる景観について、地理院地図や写真からその地理的特徴を読み取り、それらを生み出している自然条件や社会条件を考察する問題。
- 問5 浜田を中心とした商品流通の歴史について、地図や資料から関連した情報を読み取り、江戸時代の物資輸送の経路を判断して、かつての他地域との結びつきについて考察する問題。
- 問6 石見地方の過疎問題の要因を踏まえ、解決に向けた方向性と取組の適切な事例の組合せを判断する問題。地域を展望し、課題解決を志向する学びの姿勢が示されている。

3 分量・程度

- 第1問 全体として、問題数や文字数、分量は適切である。標準的な難易度の問題で構成されているが、問1は地形図から描かれた地点とカルデラ湖と堰き止め湖を判断する問題であり、最初の問題としては解答するのに時間を要したと思われる。また、問4は見慣れない図であるが、都市と農村の緑被率の違いを基に問題が構成されており、難易度は標準的である。
- 第2問 全体として、分量・難易度ともに標準的である。豚や羊、牛などの飼育頭数を扱った問1と問3は受験者の正答率が低いものの、家畜の飼育頭数やその変化の要因を考察する問題となっており、地理的な見方や考え方を働かせる良問である。一方で、イラストから判断する問5は、天幕住居という受験者にとって馴染みのない題材であり、地名に関する知識量の差が解きやすさにつながった可能性がある。
- 第3問 全体として分量は適切であるが、自然環境や経済状況の詳細な地域間の差異を理解していないと解きにくい問題で構成されており、やや難易度が高い。特に問1は、山脈や砂漠、地溝帯など特色のある地域を取り上げているものの、正確な位置に関する知識を基に陰影図から判断する問題となっており、難易度が高い。
- 第4問 全体として分量・難易度ともに標準的である。問2は、1980年と2018年の世界全体の貿易量の増加や日本と他地域間の貿易の変化を読み取ることができる良問である。図からその背景にある地理的な要因を思考・判断する問題は、学習指導要領の趣旨に沿っており、受験者の資質・能力の今以上の向上が重要と考えられる。
- 第5問 全体として標準的な分量・難易度の問題で構成されている。問1は、受験者の正答率は低かったものの、日照時間から広島市と浜田市を、1月の内陸部の寒冷な気候で三次市を選ぶことができる。一つの指標からではなく、複数の指標から判断する力が求められている。問3はリード文と2つの図を理解する過程が複雑で、時間を要した受験者が多いと思われる。

4 表現・形式

- 第1問 多様な地図や資料を基に考察する形式になっている。問1のスケッチや問4の光合成の活発度に関する資料のように興味を引くものから、問5の気象衛星画像や問6のハザードマップのように生活に馴染みのあるものまで、工夫された資料が用いられている。
- 第2問 家畜に関する世界の生活・文化について、諸課題についての探究的な活動の中で考察する設定であり、知識を問うのみではなく、思考力や判断力を働かせて考察する学習の過程が示されている。問1はアメリカがどこを対象としているのか説明が必要である。問5のイラストは大きく示すなど、より分かりやすい提示を求めたい。

第3問 アフリカを対象に自然環境や人々の生活の多様性について問う問題で構成されている。

問1の起伏図と問3の授業風景に関する写真は、見やすさや内容に関してより一層の工夫が求められる。

第4問 世界の結びつきや地球的課題について、多面的・多角的な視点から考察していく実際の授業場面が想定される。受験者にとって馴染みのない資料もあるが、問われている内容は、基本的な知識・技能を基に、地理的な見方や考え方を働かせて考察することが求められる問題となっており、良問が多い。

第5問 地域調査として、生徒が事前調査を行ったうえで現地を訪問し、人々の暮らしについて様々な視点から考察する場面が設定されている。その過程は、実際の高等学校の授業等の展開事例に近いものであり、適切である。リード文について、問1のように文中に重要な情報が入っている問題や、問3のように文が長い問題で正答率が下がる傾向にあり、その表現についてはより一層の改良が必要である。

5 ま と め（総括的な評価）

全体を通して、受験者が地理の授業で学習してきた基礎的・基本的な内容を基に出題されており、問題作成方針に則った出題である。また、学習を通して身に付けた知識・技能を問う問題や、地理的な見方や考え方を働かせて考察させることにより思考力・判断力を問う問題、次の学びへ向けて探究しようとする力や問題の解決へ向けて構想する力を問う問題が、オーソドックスな問いから挑戦的な問いまでバランスよく配置されている。「地理A」で扱う内容が万遍なく出題され、中学校までの学習を基にしながら幅広い学習が求められる問題構成であった。第2問や第5問では、生徒が自ら問いを立てて探究的に考察する場面設定や、様々な方法で地域を調べて考察する過程が設けられており、実際の授業場面や学習過程に沿った出題が重視されている。また、第5問の問6は、地域の課題について、発生要因の分析と解決に向けた取組の提言という学習プロセスを踏まえた課題解決型の設問であり、探究の視点が設問に意識されている点も特筆したい。

自然災害や地球的課題を扱う設問に関して、次年度以降の「地理総合・地理探究」を見据えた出題ともいえる。与えられた資料から情報を適切に取り取り、地理的な知識や思考を有機的に組み合わせ、実際の文脈や与えられた条件下で応用する力が身に付いているかどうか、今後も問われるだろう。

難易度で見ると、基本的な程度を標準としながら、受験者にとって難問や易問も配置されており、バランスの良い出題である。問題文や資料は著しい過多にならず適切な分量となっており、またページを戻って資料を参照することがないよう受験者にとって解きやすく配慮されている。図の判読に難がある箇所も見られるが、全体的には資料等が有効に示され、解答時の戸惑いも少なくなっている。

以上のことから、安定性と挑戦性を大切にしつつも、形式面、内容面ともに、受験者の地理の学習で知識・技能、思考力・判断力が身に付いているかどうかを適切に評価できる問題がバランスよく出題されたと評価できる。

地 理 B

1 前 文

共通テストは、大学（専門職大学、短期大学、専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている。

共通テストでは、平成21年告示学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が重視されている。地理の問題作成方針においても、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題を含めて検討すると示されている。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 世界の自然環境と自然災害に関して、地図や資料から情報を読み取り、地理的諸事象に関する知識を基に、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、諸地域の地形や気候、自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 異なる地体構造に位置する2つの島国の地形的特徴と土地利用について、図から読み取った情報を関連付けて考察する問題。

問2 北緯30～80度の陸域に占める氷河・氷床と永久凍土の緯度別割合に関する図を読み取り、その背景にある気候についての基本的な知識を基に考察する良問。

問3 ヨーロッパでみられる代表的な海岸地形の特徴を地図から読み取り、成因と関連付けて考察する問題。

問4 世界の4つの都市における1月と7月の日照時間に関する図を読み取り、日照時間の季節的違いをもたらす緯度や気候の特徴についての知識を基に、多面的に考察する良問。

問5 主題図から洪水が発生しやすい時期に関する地域的な違いを読み取り、気候に関する知識を基に、自然災害をもたらす背景のうち、ハザードの季節性について考察する問題。

問6 分布図から気象データの傾向性を読み取り、日本の気候に関する知識と関連付けて考察する問題。

第2問 鉄鋼業を手掛かりに、世界と日本の資源と産業の変化について、図表や写真等から読み取った情報と学習した事項を関連付けて、探究する問題で構成されている。

問1 鉄鉱石の産出量、輸出量、輸入量について、世界全体に占める割合を示した主題図から、世界各国・地域の特徴を読み取る基礎的・基本的な問題。

問2 日本の製鉄所の年代別立地を示した4つの地図を基に、立地やその変化の要因に関する知識を活用しながら、各年代の地図の特徴やその背景を考察する問題。

問3 幾つかの国から日本への石炭輸入量の推移について、輸入相手国における石炭の生産や消費の特徴を、国内市場に着目して人口規模や経済成長の記述を踏まえて考察する良問。

問4 4か国における1人当たり製造業付加価値額と、GDPに占める製造業の割合の変化を示した図から、各国の産業構造やその変遷に関する地理的な見方や考え方を働かせて考察する良問。

- 問5 日本国内における製造業の変化と地域への影響について、工業立地や第3次産業に関する知識を基に、ある地域の空中写真から景観の変化を読み取って考察する問題。
- 問6 製造業が盛んな地域について、資源や産業をめぐる新しい動向について、前問までの内容を踏まえつつ、目的に対応した具体的な取組を考察する問題。
- 第3問 日本や世界の都市と生活文化に関して、景観写真や家庭で使用されている主要な言語に関するグラフや資料が用いられ、人口や都市に関する地理的事象について多面的・多角的に考察する設問で構成されている。
- 問1 日本の大都市圏における都心と郊外、臨海地域それぞれの1960年代の景観写真を読み取り、1960年代以降の変化の様子を地理的な見方や考え方を働かせて考察する問題。
- 問2 日本の幾つかの市区における昼夜間人口比率と、それぞれの市区への通勤・通学者が利用する主要な交通手段の割合を示した資料を読み取り、各市区がもつ交通手段の特徴について考察する良問。
- 問3 世界の人口500万人以上の都市圏について、1990年と2015年の人口を先進国、BRICS、発展途上国に分けて示したグラフを読み取り、発展途上国の人口移動と就業構造に関する知識を関連付けて考察する問題。
- 問4 幾つかの国における都市圏の人口規模を1位から10位まで示したグラフを読み取り、都市の階層性に関する知識を基に考察する問題。
- 問5 フィラデルフィア都市圏とメキシコシティ都市圏における貧困地区の分布図を読み取り、先進国と発展途上国の都市問題について考察する問題。
- 問6 アメリカ合衆国の幾つかの都市について、家庭で使用されている主要な言語の割合を示したグラフと都市の位置を読み取り、他地域との結びつきを踏まえて、アメリカ合衆国における民族集団の分布を考察する良問。
- 第4問 環太平洋の地域に関して、多様な資料を読み取り、地域に関する知識や理解を基に、思考力・判断力を測る問題で構成されている。この地域における様々な地理的事象の多様性や結びつきを問うている。
- 問1 太平洋の海底地形断面図を読み取り、プレートテクトニクスの知識を基に考察する問題。
- 問2 環太平洋の幾つかの地点におけるハイサーグラフを読み取り、気候の特徴を反映した民族衣装を考察する問題。
- 問3 環太平洋の幾つかの国における一人一日当たりのたんぱく質供給量を、肉、魚、大豆、牛乳別に示した資料を読み取り、各国の食生活について推察したり考察したりする良問。
- 問4 環太平洋の幾つかの島嶼国・地域に関して、観光客数を出発地域別で示したグラフを読み取り、地理的近接性や空間的相互依存作用に着目してアジアやヨーロッパとのつながりを考察する良問。
- 問5 環太平洋の幾つかの国における貿易相手国への輸出額を、1999年と2019年について示した図を読み取り、環太平洋の国同士の経済的な結びつきとその変化について考察する良問。
- 問6 日本企業の1999年と2019年における現地法人数をそれぞれ環太平洋の国・地域別に示した統計地図を読み取り、工業などに関する知識を基に、日本と環太平洋の国・地域との結びつきとその変化を考察する問題。
- 第5問 (「地理A」と共通のため省略。)

3 分量・程度

- 第1問 地図や資料に表された自然環境や自然災害に関する諸事象について、知識の質やそれを

基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問4は、日照時間の季節的な違いの要因として、緯度と気候の特徴という2つの観点から考察する必要があるため、難易度が高い。資料や文章量ともに適切である。

第2問 統計地図や空中写真、グラフなどの資料に表された、世界と日本の資源や産業とその変化に関する諸事象について、基本的な知識や思考力を問う、全体的にはやや易しい設問で構成されている。問2は単なる分布図の読み取りではなく、読み取れる事象に関する知識を基に判断する必要があり、比較的難易度が高い。資料や設問数は適切である。

第3問 地図や図表、写真に表された、都市と生活文化に関する諸事象について、基本的な知識を基にした思考力を問う、全体的にはやや易しい設問で構成されている。問6はアメリカ合衆国についての地誌的知識の有無によって差が表れた問題であった。資料や設問数は適切である。

第4問 地図や図表に表されている、環太平洋という広域の地域における地理的事象とその動態について、基本的な知識や思考力を問う、標準的な難易度の設問で構成されている。問1は太平洋の海底地形について、プレートテクトニクスについての理解を基に判断する問題で、難易度が高い。問5は環太平洋地域の4つの国の結びつきの変化についての基本的な知識を問う設問であったが、多くの受験者にとっては初見の図の示し方であったため、図を的確に読み取る技能によって差が表れた。資料や設問数は適切である。

第5問 (「地理A」と共通のため省略。)

4 表現・形式

第1問 自然環境と自然災害に関する諸事象について、多様な図表が用いられており、知識としての用語を問うのではなく、学んだ概念を活用して多面的に考察する出題形式で適切である。問4は、選択肢にある都市の位置を示した地図が示されなかったため、困惑した受験者も一定数いたと考えられる。都市の位置についての知識を問うよりも、気候の概念を問うことができるような出題の工夫が求められる。

第2問 資源と産業の変化をテーマに、生徒が様々な資料を用いて探究する場面設定であり、世界や日本における現状や近年の変化、それに対する取組などについて学びを深めていくプロセスが示され、適切である。ただし、問2や問5は、示された図や写真からは読み取ることが困難な選択肢もみられるため、リード文での問い方や選択肢の表現に工夫が必要である。

第3問 都市と生活文化について、世界や日本各地の特徴を様々な種類の資料から考察する出題形式で適切である。問3は、各国で都市人口や都市圏の定義が異なることから、注釈でその旨を明記したり、本問における定義を付したりするなど、受験者が困惑することのないような配慮が必要である。

第4問 環太平洋地域を1つのまとまりとして、この地域に位置する国々の地理的な共通性や結びつきを様々な種類の資料から考察させる出題形式であり、適切である。問1は問われた海底地形の断面図が受験者にとって馴染みの薄い地点だったものも多く、判断に迷う受験者も多かったと考えられる。これまでの学習事項を活用して考察できているかを問うために、プレート境界や火山の分布が海底地形の特徴に影響を与えることをリード文に示すといった工夫をした出題形式が求められる。

第5問 (「地理A」と共通のため省略。)

5 まとめ(総括的な評価)

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、平成21年告示の学習指導要領にお

いて育成することを目指す資質・能力を測定するための良問で構成されている。特に、高等学校教育で身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料、主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。

第2問と第5問で場面設定がなされ、特に第2問は、世界と日本の資源と産業の変化についての探究活動の様子が描かれており、資料の集め方や読み取り方、思考方法、まとめ方の例を示した問題となっている。第3問の間6と第4問の間4では、都市名や国・地域の名称だけではなく地図で位置を示すことで、単なる知識ではなく地理的な思考力や判断力を求めており、学習者や授業者に対して高等学校の地理学習におけるメッセージ性を有している。また、第5問の間6は、地域の課題について、発生要因の分析と解決に向けた取組の提言という学習プロセスを踏まえた課題解決型の設問であり、探究の視点が設問に意識されている点も特筆したい。

全体的には適正な難易度であり、受験者にとって初見となる資料が付された問題がほとんどであったが、昨年度に比して大問ごとの解答に要する時間が均等化・短縮化され、改善がみられる。また、昨年までに散見された学習量に比して正解が得にくい問題、高得点を取りにくい状況には改善がみられた。しかし、第1問の間4や第4問の間1など、資料数は多くはないものの、グラフや図の読み取りにおいて、正答にたどり着くための着眼点が分かりづらい問題があった。引き続き、高等学校教育の学びの実態に即した程度や表現・形式に留意して問題の対象地域を精選したり、注釈を加えたりといった改善をお願いしたい。

全体を通して、高等学校での学習内容を元にした思考力を問う問題や探究活動の過程を再現する問題が随所に見られ、高等学校における授業改善の指針となる試験である。